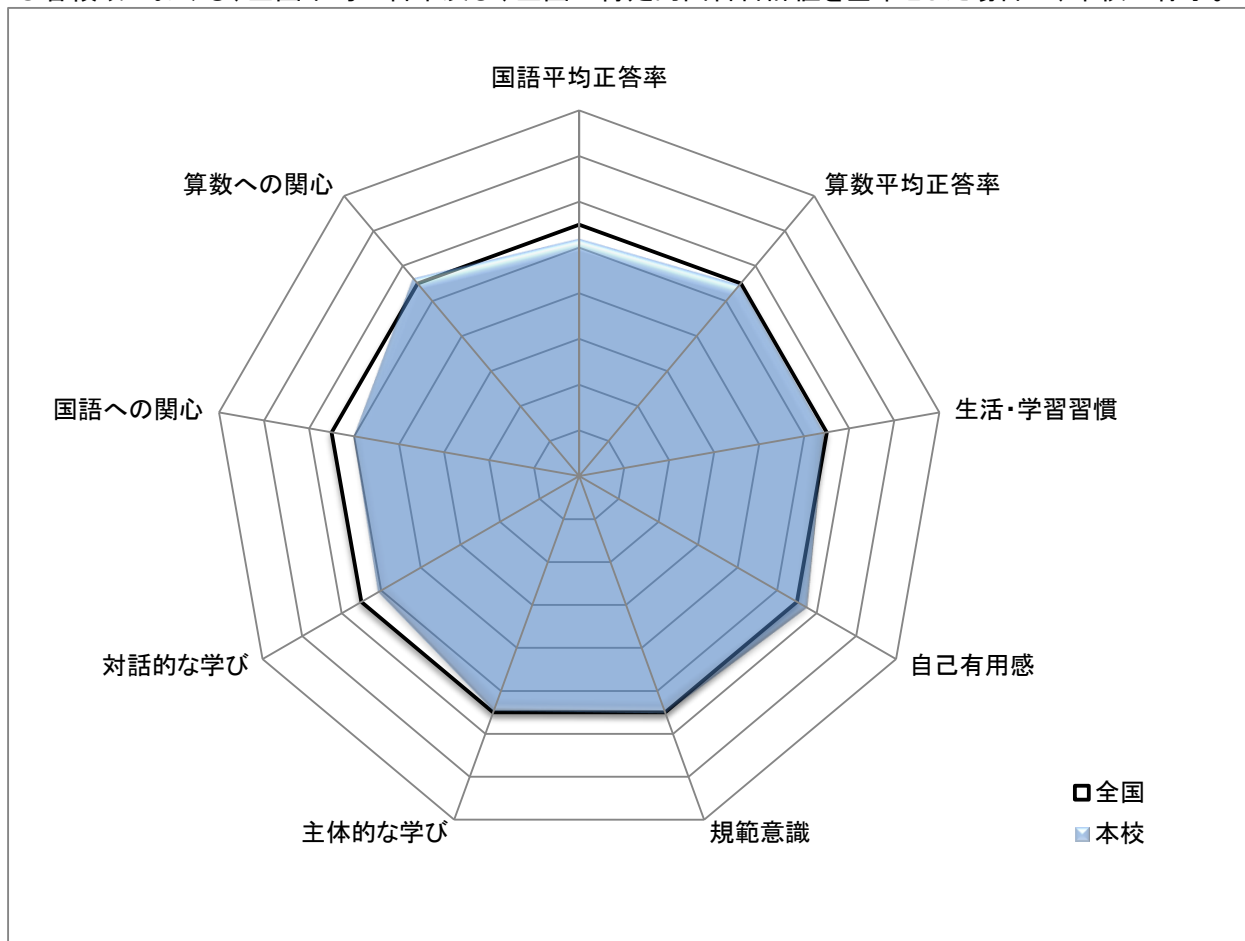


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

算数への関心・意欲が全国と比較し上回る結果となった。それに伴い、算数の平均正答率が昨年度よりも高くなっている。国語の平均正答率に関して、全国よりも下回ってはいるが、本校の例年の平均正答率の推移を見ると、確実に上がってきている。領域別に見ると、国語科「書くこと」において得点が伸び悩んでいる。出題数は少ないが、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかどうかを問われる問題に課題が見られた。算数科では「図形」の正答率が低かった。国語科、算数科共に無回答率が全国よりも高いことも課題である。

《授業改善のポイント》

全学年共通して「文章を書く」ことに苦手意識をもつ児童が多い。教科を問わず、自分の考えを文章で書き表すことを授業で多く設定する必要がある。その際、手が止まってしまっている児童に対してはヒントカード（穴埋め形式のものなど）を個別に用意したり、良い文章を書き写して書き方を学ばせたり、個に応じた指導を行っていく。「書く」経験を増やすことが大切だと考えている。算数科では、2年生以上で習熟度別少人数クラスで授業を実施している。特に今年度は振り返りの時間を重視し、児童の記述を基に次の時間の授業展開を工夫していく。算数科において各学年、到達度診断テストや普段のワークテストの結果を分析し、その学年の苦手とする単元については授業時数を多く設定したり、中学習の時間も活用して復習問題を繰り返し行わせたりしていく。対話的な学び、主体的な学びとなるように、子供たちが必要感をもって授業に取り組める課題を設定すること（導入の工夫）、発問の工夫等教材研究を行っていく。また教職員間で授業を見合い、指導力向上を目指していく。また、様々な教科でペア学習やトリオ学習を取り入れ、自分の考えを伝え合う活動を意図的に設定していく。

《チャートの特徴》

＜全国と本校の平均正答率＞
 国語 全国 67.2% 本校 63%
 算数 全国 62.5% 本校 62%
 昨年度と比較し、国語の正答率は若干離されたが、算数の正答率はほぼ全国平均となった。また、算数への関心が全国の肯定的回答より1.09ポイント高まった。対話的な学びや主体的な学びも依然として全国平均を下回るが、昨年度よりも向上している。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭生活週間や家庭学習週間のご協力をお願いし、学校と家庭とで連携を図っていく。到達度診断テスト（校内）や全国学力テストの個別評価シートを児童本人、保護者が共有し苦手とする単元を把握していただき家庭学習にも生かしていただくように促していく。